

第1回新たな劇場整備検討委員会での委員長による委員会総括意見

第1回検討委員会は、緊急事態宣言が解除された時期とはいえ、参加する委員数による空間構成などを考慮し、書面による開催としました。委員の皆様からは26件という多くのご意見をいただきました。短期間での対応について、ありがとうございました。いずれも貴重なご意見ですので、今後の委員会に生かしていきたいと考えています。私からは、皆様のご意見をふまえ、今後の検討に反映させるため、以下の総括意見として取りまとめました。

1 わが国を代表する劇場の意義について

新たな劇場は、世界レベルやアジアの拠点、また、わが国を代表することなど目指すべき方向性を示しています。一方で、「わが国を代表する」とは、具体的にどういうことなのか、そのためにどうすべきなのかなどを検討すべきです。わが国を代表する劇場として新国立劇場があります。例えば、新国立劇場との分担や連携など、検討すべきです。

2 オペラ・バレエへの対応について

提言(第一次)では、新たな劇場について、「オペラ・バレエを中核」と示しました。今年度、事業計画の見通しを策定するにあたっては、オペラ、バレエ、それ以外の舞台芸術、それぞれへの対応をまとめる必要があります。そのことが、舞台機構など基本計画の検討にも関わってきます。委員の皆様も、様々なご意見があると推察しますが、劇場の特性を明らかにしつつ、検討を進めていくようお願いします。

3 育成機能の強化について

舞台芸術を支える人材育成は大切です。特に、バレエの人材育成は課題が多いと認識しています。まずは、バレエに焦点を当てていくことについて、劇場のあり方などの議論の中から検討するとともに、諸外国の事例などを研究し、本劇場での導入のあり方を取りまとめるようお願いします。

4 検討の方向性について

新型コロナウイルス感染拡大防止の中で、社会全体が不安定で、経済環境も厳しい状況が続き、特に、文化芸術への影響は甚大であり、まずは、国や自治体による取組が求められていることを認識すべきとのご意見。一方、文化芸術は、人が地域で、社会で関わりを持って生きていくうえで必須であり、こうした閉塞感がある時こそ、文化芸術が重要であるのご意見。また、新型コロナウイルス感染症の収束が見えない中、収束後を想定することは容易ではないとのご意見など、取り巻く状況について多くのご意見をいただきました。

本委員会では、常にこうした情勢を認識しつつ、横浜の中長期的な視点からの文化芸術を支え、経済活性化へも大きく貢献する新たな劇場整備の検討について着実に進めていくこととします。

5 検討の進め方について

令和2年度は、提言に向けた作業及び市としての基本計画や管理運営の取りまとめに向けた指導助言などがあります。実りある議論と円滑な作業を考慮し、事務局においては、進め方についても専門家である委員の皆様のご意見をいただきながら進めてください。